

中遠地域の農業・林業の話題をお届けします！



きらり中遠 ホットニュース

静岡県中遠農林事務所

令和5年9月1日 発行（第1号）

いちご栽培スクールを開催しています

（生産振興課）

5月15日から、いちごの新規就農者を対象にした令和5年度「いちご栽培スクール」を開講しています。

本スクールは、いちご生産を始める受講生の収益確保が確かなものとなるよう、栽培技術の習得支援を目的に、管内3つのJAと協力し、来年1月まで計7回開催する予定です。

8月までの4回では、いちごの生理生態や親株の整理、定植前の準備について学んでいただきました。各回とも講義の後には、先輩農家のほ場を見学し、受講生と先輩農家との間で活発な情報交換がされていました。

引き続き、いちごの新規就農を支援していきます。



森町の天方・三倉オープンハウス「ぷぷぷの日」

（地域振興課）

5月27日（土）・28日（日）の両日、森町ツーリズム研究会主催の第18回天方・三倉オープンハウス「ぷぷぷの日」が開催されました。

このイベントは、地区にお住まいの方・施設17箇所が、自宅やお店を来場者に開放することで、暮らしぶりを紹介するほか、生産・製作品を展示・販売する取組で、年2回実施しています（次回は11月11日（土）、12日（日）の予定）。

来場者は、配布された地図と幟を頼りに自家用車で気になる箇所を自ら訪問し、御自宅の方とお茶を飲みながら語らうほか、展示品を見学して楽しむことができます。

「ぷぷぷの日」は、森町の中山間地域が周辺市町住民と交流するイベントであり、当所は更なる誘客の取組を提案していきます。



【美農里】いまい保全の会が、今井小学校で「田んぼの楽校」を行いました

(農村整備課)

美農里の活動組織「いまい保全の会」(袋井市)が、6月6日(火)、今井小学校で「田んぼの楽校」を行いました。これは、年間を通じて今井小学校と連携し、子供たちに米づくりを体験してもらう取り組みです。

いまい保全の会から田植えの説明を受けた小学生は、泥の中で一生懸命に田植え作業を行い、田植えの後には畔から防草のためのペレットを撒きました。

尻もちをついて泥だらけになる子や泥を投げて遊んでいる子もいましたが、子供たちからは「泥の感触が気持ちよかった」「大変だった」「楽しかった」との感想が聞かれました。

小学校との連携の中で、子供が地域の方々と接することで、農業や地域を身近に感じてもらい、これらの活動を通して、将来の担い手である子供達に農業農村の大切さを伝えていきます。



【美農里】いまい保全の会が、今井小学校で「畑の楽校」を行いました

(農村整備課)

美農里の活動組織「いまい保全の会」(袋井市)が、6月22日(木)、今井小学校で「畑の楽校」を行いました。

これは、年間を通じて今井小学校と連携し、子供たちに大豆づくりを体験してもらう取り組みです。

最初に、磐田用水東部土地改良区から大豆について説明を受けた後、外廊下に移動して、種蒔き作業を行いました。ポットに種を入れる作業が人気で、種を持った子供たちが順番に種蒔きしていました。



最後に、いまい保全の会から水やりの方法を教えてもらい、子供たちが当番でお世話すると約束していました。できた大豆で豆腐作りを行うので、子供たちは今からとても楽しみにしています。

「花壇づくり研修会」を開催しました

(企画経営課)

6月27日(火)に、ふじのくに花の都しずおか中遠地域推進協議会員及び一般の希望者を対象に「花壇づくり研修会」を開催し、多くの方に参加していただきました。

講師は、「浜名湖花博15年目の春」修景デザイナーである、土岐智彦氏に依頼し、誰でも・簡単に・楽しく・継続してできる「花壇の骨格づくり」について学びました。参加者からは「高齢化が進み、地域の花壇作りが大変になってきているので、とても参考になった」「多年草を取り入れて、楽な作業にしていきたい」等の感想が多く聞かれました。

今後も、花と緑にあふれる地域づくりを支援していきます。



里山の魅力発信施設「たまどん」が完成しました

(地域振興課)

森町天方地区鍛冶島では、地元組織「てんぼうの里」を中心に古民家を改装し、活動拠点となる施設の整備を進めてきました。

7月2日(日)、「半夏生の小径」の開園式の後、地元住民や関係者に披露され、多くの人に地元産のブルーベリーや栗(あわ)を使ったかき氷が振る舞われました。

「たまどん」は旧家の屋号で、酒処として地元住民の拠点になっていました。県道から近く、訪れる人が寄りやすい場所にあります。今後は週末を中心に、地元産品やかき氷等の販売を予定する



とともに、地域の魅力発信や地元体験の拠点施設としての取組を検討する計画です。

特定家畜伝染病防疫対応研修会が実施されました

(家畜衛生課)

7月27日(木)に西部地域局主催の西部地域特定家畜伝染病防疫対応研修会が実施されました。

西部家畜保健衛生所から、養鶏場での高病原性鳥インフルエンザの発生事例を想定し防疫計画の概要を説明した後、総務班、移動規制班消毒ポイント係、防疫支援班、経営対策班、焼埋却支援班に分かれて、班ごとに発生時の作業内容の確認と担当業務の割当てなどを行いました。

今後も班ごとの打合せや防疫演習を重ね、特定家畜伝染病発生時に迅速に対応できるよう体制を整えていきます。



中遠次世代トマト環境制御セミナーを開催しています（生産振興課）

7月27日（木）から、トマト農家を対象にした「中遠次世代トマト環境制御セミナー」を開催しています。

本セミナーは、栽培施設の最適な環境制御を行うことで収量と品質を向上させ、トマト農家の経営を安定させることを目的に、来年2月まで計4回開催する予定です。第1回は、「トマト栽培における夏場の高温対策」をテーマに外部講師を招き、対話形式で実施したことで、生産者にも大変好評でした。

今後も最適な環境制御を取り入れられるように支援していきます。



中遠農業青年塾を開催しています

（生産振興課）

7月27日（木）に、若手農業者や新規就農者を対象に中遠農業青年塾を開催しました。

農業青年塾は、将来の地域農業を担っていく若手農業者が「目指す農業のかたち」を考え、自らの課題解決や新たな発展方法を見出し、ビジネス経営体への成長を支援することを目的にしています。

第1回には10名の受講生が参加し、株式会社ふるさと支援研究所 清水進也先生による事業計画（経営戦略）作成方法の講義を受けた後、「自分の目指す農業」の作成に取り組んでもらいました。

今後も若手農業者を支援していきます。



中遠農業マネージメント講座を開催しています

（生産振興課）

8月1日（火）に中遠農業マネージメント講座を開催しました。本講座は、意欲的に農業経営を行っている方を応援するため、経営理念や経営戦略等を体系的に学ぶ内容になっており、12月までに計6回開催する予定です。

第1回は、カムイブレインコンサルタント株式会社代表取締役の藤田浩嗣氏（中小企業診断士）を講師に、経営理念やビジョンの重要性を学んでいただいた後、現状を把握するためにSWOT分析を行いました。

今後も認定農業者や経営規模拡大に意欲のある方を支援していきます。

